



赤嶺 雅和 議員

待機児童はどのように推移しているか。

答 毎年、増加傾向にあり、保育園を増設して対応している

問 待機児童はどのように推移しているか。

副町長 平成27年度の子ども子育て新制度が始まり本年度までに認可保育園を3園、小規模保育園を4園新設している。分園や増改築等で4園の定員増となる。既存保育園の協力により403人の定員を増やした。今年4月1日現在で194人である。保育園を増やしても、毎年増えている。

問 待機児童が毎年増える要因としてどのように考えているか。

民生部長 本町の特徴は、人口増が大きな理由である。また新制度により申込者が増えた。

問 それ以外何か理由はないか。
民生部長 保育士不足による定員割れという状況がある。

役場職員の町民対応を問う

問 町長就任の挨拶の中で「役場は最大のサービス産業である。町民へのサービス向

上に努める」とあるが、日頃がんばっている窓口業務の皆さんは特に気を使って頑張っているかと思う。どうか。

総務部長 職員一丸となって住民サービス向上に努めている。

介護をうける世帯の割合について

問 介護を受ける世帯の割合について問う。

副町長 今年の3月末時点で要介護高齢者は812人で、13・1%。要支援高齢者は224人で3・4%、平成29年10月時点の独居高齢者は1128人で7・8%となっている。

問 今、問題になっているのは独居高齢者であり、社会とのかかわりを持たない高齢者である。特に80歳以上の高齢者の車の免許を持っている人はできるだけ免許は返納できないかという事である。車がないと不便だから返納しない。

本町はこういった独居高齢者に対してどのような対策をとっているか。

民生部長 社協と連携して支え合うまちづくり事業や社会的孤立対策事業、あるいは声かけや、安否の確認等も含めた友愛訪問事業。高齢者自分で食事が作れない方への弁当の配達である。安否確認しながら取り組んでいる状況である。また、買い物弱者への支援等、新たな施策の導入も検討していく。



▲まちづくりサポートセンターでは、家庭内清掃も行っています。